

平成16年3月期 第3四半期業績の概況（連結）

平成16年2月20日

上場会社名 株式会社アトム
コード番号 7412

上場取引所 東名
本社所在都道府県 愛知県

(URL <http://www.atom-corp.co.jp/>)

代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 佐々木 正時
問合せ先責任者 役職名 常務取締役 氏名 野原 滋公

T E L (052)702-7500

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結会計年度 : 無
における認識の方法との相違の有無

2. 平成16年3月期第3四半期業績の概況（平成15年4月1日～平成15年12月31日）

（1）売上高

（百万円未満切捨）

	売上高（前年同四半期比増減率）	
	百万円	%
16年3月期第3四半期	21,342	(-)
15年3月期第3四半期	-	(-)
（参考）15年3月期	25,027	(-)

（注）売上高は、当該四半期までの累計値であります。

15年3月期第3四半期につきましては、四半期業績の開示を行っておりませんので、売上高及び前年同四半期比増減率を記載しておりません。

[売上高に関する補足説明]

当第3四半期の当社グループを取巻く環境は、個人消費の長期に渡る低迷から外食産業市場は縮小傾向にあり、非常に厳しさを増しております。

このような状況の中、当社は、新規出店として、すし部門3店舗（「回転アトムすし」直営店1店舗、「にぎりの徳兵衛」直営店2店舗） レストラン部門5店舗（「カルビ大将」直営店2店舗、「ザ・フォーロン」直営店2店舗、「サイバーカフェ・フリークス」直営店1店舗）の合計8店舗の出店を行いました。

業態変更につきましては、すし部門は直営店13店舗（「アトムボーイ」から「海鮮アトムボーイ」へ2店舗、「アトムボーイ」から「にぎりの徳兵衛」へ1店舗、「海鮮アトムボーイ」から「にぎりの徳兵衛」へ9店舗、「回転アトムすし」から「唐楽家」へ1店舗） F C店3店舗（「アトムボーイ」から「回転アトムすし」へ1店舗、「アトムボーイ」から「にぎりの徳兵衛」へ1店舗、「海鮮アトムボーイ」から「にぎりの徳兵衛」へ1店舗）の合計16店舗行いました。レストラン部門は直営店9店舗（「韓の食卓」から「カルビ大将」へ7店舗、「歓喜亭」から「カルビ大将」へ1店舗、「かつ時」から「えちぜん」へスクラップアンドビルド1店舗）行いました。

F C店との店舗異動は、F C店から直営店への異動が3店舗（「アトムボーイ」および「海鮮アトムボーイ」から「にぎりの徳兵衛」2店舗、「韓の食卓」から「カルビ大将」1店舗） 直営店からF C店へ3店舗（「海鮮アトムボーイ」、「唐楽家」、「万豚麺」）ありました。

閉店は、すし部門で直営店3店舗（「海鮮アトムボーイ」、「回転アトムすし」、「すし王」）、F C店3店舗（「アトムボーイ」3店舗） レストラン部門で直営店1店舗（「万豚麺」）、F C店1店舗（「万豚麺」）の合計8店舗を行いました。

その結果、当第3四半期末の店舗数は、すし部門では直営店76店舗、F C店62店舗の合計138店舗、レストラン部門では直営店134店舗、F C店26店舗の合計160店舗、合計で直営店210店舗、F C店88店舗となりました。

売上高については、すし部門は76億83百万円、レストラン部門は126億35百万円、食材部門は8億39百万円、ロイヤルティ・加盟金などの「その他」として1億83百万円となり、売上高合計で213億42百万円となりました。

（2）当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

該当事項はありません。

3. 平成16年3月期の連結業績予想（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり 予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	28,544	658	262	25 05

[業績予想に関する定性的情報等]

平成15年11月25日発表の連結業績予測を現時点では修正しておりません。

12月24日米国においてBSE（牛海綿状脳症）感染牛発生の発表があり、安全性が確認できるまでの間、米国産牛肉の輸入禁止措置が取られており、供給不足から国内外の牛肉の価格が大幅に変動することが見込まれます。そのため、当社グループ「カルビ大将」を含む焼肉業態において原材料の仕入価格上昇、及び風評による売上の変動のリスクがあります。

計画達成に向け鋭意努力をいたす所存ではありますが、上記記載の見通し数値とは異なる可能性がありますことをご承知おきください。

以 上